

グローバルヘルス・オンライン合同学会によろこそ!

第35回日本国際保健医療学会学術大会大会長
中村安秀（甲南女子大学・日本WHO協会）

4つの学会がチャンプルー

「グローバルヘルス合同大会 2020」
として、2020年11月1日-3日に大阪大学吹田キャンパスにて開催すべく、準備をすすめてきました。国際保健医療（グローバルヘルス）に関連する4つの学会が合同するのは初めて、しかも大阪での初めての開催という、初物づくしの合同大会です。

第61回日本熱帯医学会の金子明大会長（大阪市立大学）、第24回日本渡航医学会の南谷かおり学術集会長（りんくう総合医療センター）、第5回国際臨床医学会の中田研学術集会長（大阪大学）、そして、第35回日本国際保健医療学会の学術大会長を務める中村安秀です。テーマは、「チャンプルー！ 交じる、つながる、支えあう」。「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標3だけでなく、目標17「パートナーシップで目標を達成しよう！」に着目しました。インドネシア語のチャンプルーは、混ぜる、交ざりあうという自動詞、他動詞的にも使われる言葉です。琉球料理のチャンプルー、長崎料理のチャンポンと語源を一にするともいわれています。

高度専門技術が発展するなかで、組織間や産業間で情報が行きかう横のつながりがなければ、良い技術や経験が埋もれかねないという「サイロ・エフェクト」に警鐘が鳴らされています。4つの学会が混然一体（チャンプルー）となって、お互いの専門性を尊重しあい、支えあいながら一つのチームになって準備をすすめてきました。

新型コロナウイルスにより、オンライン学会に

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界の景色を一変してしまいました。感染症に国境はありません。新型コロナウイルスは、自国だけで解決できません。仮に日本国内で感染を終息させることに成功しても、地球上に大きな流行地がある限り、日本国内における感染症対策や水際作戦を継続する必要があります。アジアやアフリカの新型コロナウイルス感染対策に対する国際協力を継続して行うことは、ひいては国内の感染症対策に資する道筋でもあるのです。

まさに、いまこそグローバルヘルスで培ってきた国際保健医療の経験と知恵の出番です。日本モデルを提供するといった形の一方の国際協力ではなく、アジアやアフリカの国々の取り組みからも謙虚に学びながら、世界の過去の経験も明らかにして、成功体験は惜しみなく共有し、失敗を糧にして同じ轍を踏まないように注意しあう。専門分野や国境を越え、市民や研究者が混然一体となった学びの場がいま必要とされています。

グローバルヘルス合同大会2020では、完全なオンライン開催をおこなうことに決めました。当初は、一部は会場にも来ていただく形のハイブリッド形式も模索したのですが、感染症の動向が予測できないために、基調講演も海外からの演者もすべてオンラインで行うことにしました。内容においても、「新型コロナウイルス」に焦点を当てることにしました。

感染症専門家だけでなく、社会学、経済学、歴史学、人類学など幅広い分野からのアプローチで新型コロナウイルス感染を捉え、パンデミックに対する各国の対応から学び、新型コロナウイルス感染がSDGsに与えたインパクトを議論したい。そして、ポスト・コロナ時代を見据えて「わたしたちは、今後何を変える必要があるのか？」を問いかけていきたいと考えています。

気軽に参加してください！

学会員でなくても参加できます。

ふだんはなかなかお話を聞けない国内外のグローバルヘルスのリーダーたちからの基調講演があります。また、国内外の研究者や実務者から構成される魅力的なメンバーによる、シンポジウムもあります。研究者同士のむづかしい話だけでなく、NGOや市民の方々が参加して議論する場もあります。同時に、いつかの会場が開いていますので、ご自分が気に入ったシンポジウムやセミナーを選んで視聴することができます。

実は、この原稿を書いている段階では、シンポジウムなどの詳細を詰めているところです。ぜひ、最新情報をホームページで入手してください。

<https://www.gh2020.jp/index.php>

グローバルヘルス、新型コロナウイルス感染症に関心を持つ多くの方々のご参加を心からお待ちしています！！

グローバルヘルス合同大会 2020 大阪

Joint Congress on Global Health 2020 in Osaka

大会長 第61回 日本熱帯医学会大会

金子 明 (大阪市立大学)

第35回 日本国際保健医療学会学術大会

中村 安秀 (甲南女子大学・日本WHO協会)

第24回 日本渡航医学会学術集会

南谷 かおり (りんくう総合医療センター)

第5回 国際臨床医学会学術集会

中田 研 (大阪大学)

交じる、つながる、
支えあう



Campur! Integration, Solidarity and Collaboration

会期 2020.11/1日 - 3日

Date : November 1(Sun.) - 3(Tue.), 2020

会場 大阪大学吹田キャンパス (コンベンションセンター・銀杏会館)

Venue : Osaka University Suita campus
(Convention Center・Icho Kaikan)

<https://www.gh2020.jp/>

【基調講演者】(予定)

Michal Reich 教授 (ハーバード大学公衆衛生大学院・教授)

ジャン=ジャック・ムエンベ=タムフム博士

(コンゴ民主共和国：野口英雄アフリカ賞受賞者)

Lin Chen 氏 (世界渡航医学会 ISTM 会長：米国)

ロンナチャイ・コンサコン氏 (タイ医師会・会長)

葛西健氏 (WHO 西太平洋地域事務局長：WPRO)

武見敬三氏 (WHO：UHC 親善大使、参議院議員)

星野俊也氏 (国際連合日本政府代表部大使 次席常駐代表)